

2024年7月28日 聖霊降臨後第十主日礼拝説教

「たとえ見えなくても」(ヨハネ6章1～21節)

○ヨハネ6章1～15節について

「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか。」(5節)

救い主イエスが、イスラエルのガリラヤにて、人々の病を癒す〈しるし〉を現わされたとき、それを見た多くの人々は、山に登ったキリストの後をも追ってきた。

☞しばらく経つと、お腹の空く頃になり、神の子イエスは、弟子のフィリポを試して、いま〈できそうにないこと〉を、どうするのかと彼に問いかけた。

「フィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられた」(6節)

☆ペトロの兄弟アンデレは、ある少年が持つ「パン五つと魚二匹」(9節)をキリストに示したが、見えるものに縛られ、諦めの思いしか言い表せなかった。

「けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」(9節)

今日のみことば：ヨハネ6章20節

「イエスは言われた。『わたしだ。<sup>い</sup>恐れることはない。』」

救い主イエスの〈しるし〉を見て、腹も満たされた弟子たちは、彼らだけで湖の向こう岸へ渡ろうとしたが「強い風が吹いて、湖は荒れ始めた」(18節)。そこにキリストが湖の上を歩いて来られ、嵐を静めて、舟を目指す地へと送り届けた。

☆弟子たちは、傍にいなかった神の子イエスに心を向けずにいたが、この方はずっと彼らを見て、助けを与えるため、人の歩けないところから来られた。

※キリストは、どんなときも、わたしたちのことを気に掛け、心の荒波、揺れる思いの向こうから助けに来て、あなたの心を落ち着くべきところへ導かれる。